

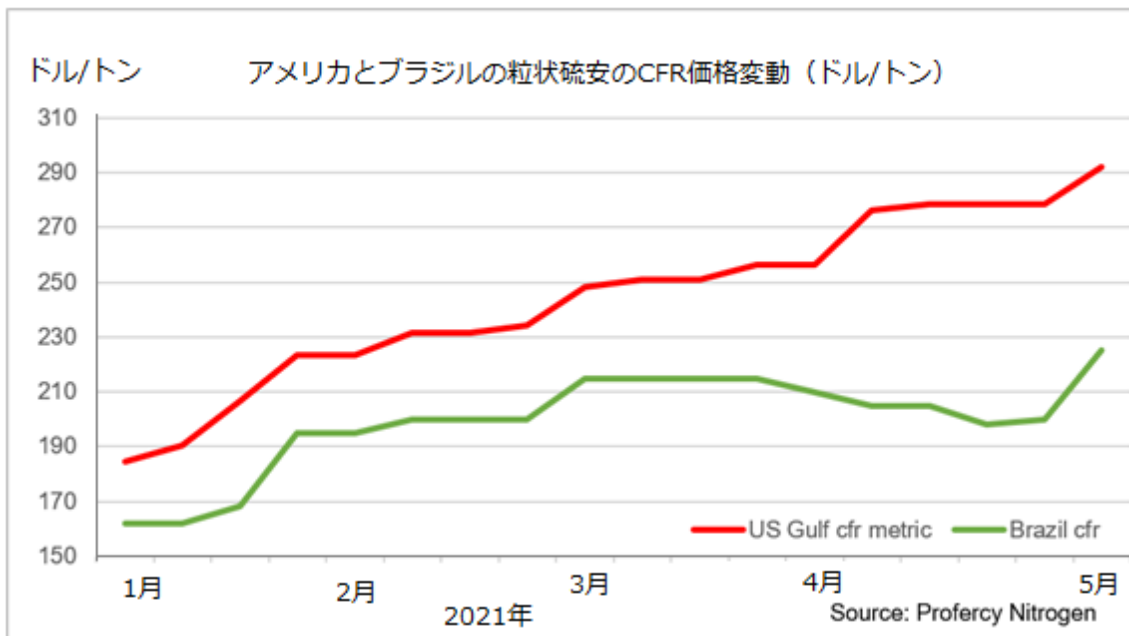
国際化学肥料ニュース (2021年5月)

肥料業界の2021年5月動態

- * 5月4日、インドMMTC社の尿素国際入札が開札された。14社が応札して、応札量257万トン、最低応札価格がCFR西海岸358.99ドル/トン、CFR東海岸356.99ドル/トンで、ともにAmeropa社の応札である。3月に行った前回RCF社の尿素入札に比べて、最低応札価格が21~23ドル/トン下がっている。

5月7日、MMTC社が今回の尿素入札で約55万トンを確認すると非公式に漏らした。落札した尿素は主に中東産のもので、一部がロシアとウクライナ産のものである。中国産尿素は50~70万トン応札したが、価格が高く、契約されていない模様。

- * 硫安の国際相場は高値が続いている。5月上旬アメリカ硫安のCFR Noraが270ドル/トンで、昨年第2四半期の平均価格より約90ドル高くなっている。その理由は国内供給不足でEUからの輸入量も減少したためである。また、中国からの硫安輸出価格が上昇したため、ブラジル向けのブリケット硫安（圧片品）は、3月からずっとCFR200~215ドル/トンで推移しているが、5月上旬からさらに値上げされている（下の図）。



- * 5月第1週の尿素国際相場がインドMMTC社の尿素入札の応札価格の影響を受け、小幅に下落した。中東産尿素の最新スポット価格がFOB330ドル/トン、旧ソ連産尿素のFOB黒海が310~320ドル/トンに下落した。アメリカ南部地域では激しい嵐があ

り、農家の購入意欲を削がれ、CFR 価格が先週より約 10 ドル/トン下落した。ただし、ブラジルは逆に大粒尿素的 CFR 価格が先週より 15 ドル/トン高く、380 ドル/トンを超えた。

- * 5 月第 2 週 (5/3~5/8 日) の尿素国際相場はインド MMTC 社の尿素国際入札の結果に関わらず強気に戻した。特に中国産尿素は 5 月第 1 週の FOB330 ドル/トンから 355~360 ドル/トンに上昇した。北アフリカではエジプトの業者が中南米に約 20 万トン大粒尿素的の契約を結んだため、1 週間で約 15 ドルも上がり、FOB370 ドル/トンを要求している。アルジェリアも同様な上昇が見られ、1 週間で FOB340 ドル/トンから 375 ドル/トンになった。中東では 7 月積みめの尿素が 16 ドル上がり、FOB360 ドル/トンとなった。5~6 月は高値が続くだろうと予測される。
- * 新型コロナウイルスの影響で、延期となったバングラデシュ農業省の 7 万トン DAP と 2 万トン重過リン酸石灰の国際入札はが、5 月 27 日までに開札、購入契約を結ぶという最新のスケジュールが発表された。ただし、5 日後、再び新型コロナウイルスの影響で、入札を 6 月に延期することを発表した。
- * インド化学肥料部の発表によれば、インド 2020~2021 年度 (2020 年 4 月~2021 年 3 月) の国内尿素生産量 2482.6 万トン。また、2021 年 3 月インド RFCL 社が生産能力 127 万トンの新規尿素生産ラインを完成し、稼働が始まった。したがって、2021 年 4 月現在インドの尿素生産能力が 2600 万トンに達した。また、2021~2022 年度にはさらに計 381 万トン尿素的の生産ラインが完成し、国内尿素生産能力が 3000 万トン前後に達する予測である。

ただし、耕作面積の増加と単位面積当たりの肥料施用量の増加により、尿素的の需要量も増え続けている。2021 年の Kharif シーズン (5~9 月) には 1775 万トン尿素的が必要であるが、国内生産量が 1200 万トンしかなく、不足分が輸入に依存する。すでに 2 回国際入札を行い、計 135 万トン尿素的を購入したが、さらに約 450 万トンを輸入する必要がある。
- * オーストラリアの Agrimin 社は中国の中化化肥 (マカオ) 社と現在進行中の西オーストラリア州の Mackay 加里プロジェクトから稼働後に 10 年間毎年 15 万トン硫酸加里を供給する覚書を締結した。

- * 5月20日、インド RCF 社が新の尿素国際入札を発表した。5月25日締め切りと開札、購買数量未定、船積みが6月30日までという条件である。これはインド今年3回目の尿素国際入札である。
- * 中国税関の速報によれば、2021年4月中国化学肥料輸出量297万トン、その内訳は硫安92万トン、尿素54万トン、DAP45万トン、MAP37万トン。化学肥料輸入量108万トン、その内訳は塩化加里93万トン、NPK化成肥料13万トン。
- * 5月第3週(5/10~5/16)の尿素国際相場が上昇し続けている。来週のインド RCF 社の国際入札に備え、中国尿素の FOB 価格が370~380ドル/トンに上がり、エジプトも価格が最大30ドルも上がり、3月中旬以来初めて FOB400ドル/トンとなった。輸入側ではラテンアメリカ、オーストラリアと東南アジアが短期的な輸入需要があり、タイトの状態となっている。ブラジルでは CFR 価格が400ドル/トンを超え、415ドル/トン近くになっている。アメリカも CFR 価格が400~420ドル/トンに上昇した。この様子では、6月の尿素国際相場が堅調のまま推移するだろう。
- * 5月27日、インド RCF 社が2日遅れで尿素国際入札の応札情報を公開した。12社が応札し、応札量が東海岸79.5万トン、西海岸59.5万トンの計148万トン、最低応札価格は KOCH 社の CFR 東海岸408.88ドル/トン、Ameropa 社の CFR 西海岸418ドル/トン、前回(5月4日)開札された MMTC 社の最低応札価格よりそれぞれ52ドル、59ドル/トン高くなっている。
- * 尿素の国際相場の高騰でヨーロッパの硝安と硝酸石灰の価格も吊り上げられ、この数年最高値となっている。ノルウェーの Yara 社はフランスでの硝安小売価格を325ユーロ/トンに決定し、去年同期より75ユーロ高くなっている。同時に硝酸石灰の CIF ドイツ価格を去年同期より80ユーロ高い255ユーロ/トンに設定する。その後、Borealis と Eurochem もフランスでの硝安価格を Yara の希望小売価格より2~10ユーロを上回ると発表した。
- * インドの RCF 社の尿素国際入札を受け、5月第4週(5/17~5/23)の尿素国際相場が8ドル/トン以上が急騰し、2月上旬以来の最大の週間上昇幅となった。中国小粒尿素の FOB 価格が360~375ドル/トン、大粒尿素の FOB 価格が370~375ドル/トンで、前週より10ドル以上の上昇である。エジプト産尿素が6~7月分がほぼ売り切り、8月納品の大粒尿素 FOB 価格が400ドル/トンを超え、405ドル/トンが要求される。CFR ブラジル価格も再び上昇し、前週より15ドル高く、420ドル/トンの大台に達した。

- * インド政府がモンスーンシーズンに入る前に DAP と NPK 化成肥料販売補助金の追加を決定した。DAP に 912.5 億ルピー、NPK 化成肥料に 565 億ルピーを追加する。2021～2022 年度の化学肥料補助金総額が 4227.5 億ルピー（約 58 億ドル）となった。

特に DAP 補助金を 24231 ルピー／トン（334.8 ドル／トン）にして、前年度補助金より 137%増である。ただし、最高小売価格を 24000 ルピー／トン（331.6 ドル／トン）に規制する。現在の CFR インド 500 ドル／トンを超えた輸入価格から見れば、輸入商社の赤字販売が避けられない。したがって、インド NFL 社と RCF 社が DAP の国際入札をキャンセルして、国内 DAP 在庫量が 220 万トンしかない窮地となっている。国内生産についてもモロッコから輸入される粗りん酸の CFR 価格がすでに 1000 ドル／トンを超え、採算の取れる状態ではない。

- * 5 月、塩化加里の国際価格が上昇し続けている。特にブラジルでは CFR 価格が年始の 250 ドル／トンから 380 ドル／トンまで、50%以上も上昇した。5 月 7 日から Mosaic 社はアメリカ中西部向けの 10 月までの大粒塩化加里の卸し価格を 30 ドル／ショートトン上げて、400 ドル／ショートトンとする。この価格はカナダの Nutrien 社の新価格と一致している。

HIS Markit の貿易統計データによれば、アメリカ 1～3 月の塩化加里輸入量が 25%増の 359 万トン、そのうちカナダから 254 万トン、ロシアから 46.1 万トン、イスラエルから 26.6 万トン、ベラルーシから 23.8 万トン、ドイツからも 5.5 万トンを輸入した。また、カナダの 1～3 月塩化加里輸出量が 1%減の 494 万トン。

一方、ブラジル 1～4 月の塩化加里輸入量が 35%増の 321 万トン、新記録を樹立した。需要が非常に旺盛で、6 月納品の塩化加里 CFR 価格がすでに 375～380 ドル／トンとなり、7～9 月には 385 ドル／トン以上に上がる可能性もあり、世界塩化加里相場を押し上げる原動力となっている。

インド政府化学肥料省の最新データによれば、5 月 12 日、インド全国の塩化加里在庫数量が 154 万トンしかなく、この数年の最低水準である。ただし、新型コロナウイルスの変異株の感染拡大により国内ロックダウンと港の閉鎖が現実となり、船の停泊と荷卸しに支障が出る可能性があり、在庫量がさらに減少するだろう。

大手各社の営業業績

- * アメリカの Mosaic 社は 2021 年第 1 四半期の業績を公開した。リン酸肥料生産量 190 万トンであるが、販売量が 7%増の 210 万トン、加里肥料販売量も 5%増の 200 万トン。売上高が 27.75%増の 22 億 9710 万ドル、EBITDA が 139.3%増の 5 億 6000 万ドル、純利益が 1 億 5700 万ドル、昨年同期の 2 億 300 万ドル赤字から黒字に転換した。

- * エジプトの OCI 社が 2021 年第 1 四半期の業績を公表した。売上高が 38%増の 11 億 2000 万ドル、EBITDA が 134%増の過去最高の 4 億 5200 万ドル、純利益が昨年同期の 8200 万ドル赤字から 9400 万ドルの黒字に回復した。
- * アメリカの窒素肥料メーカー CF Industries 社は 2021 年第 1 四半期の業績を公表した。売上高が 8.14%増の 10.5 億ドル、EBITDA が 26.75%増の 3.98 億ドル、純利益が 122.06%増の 1.51 億ドル。
- * ロシアの PhosAgro 社は 2021 年第 1 四半期の業績を公表した。肥料販売量が 2.7%増の 286.4 万トン、その内訳はリン酸系肥料が 0.5%減の 207.7 万トン、窒素肥料が 11.9%増の 78.7 万トン。売上高が 36.7%増の 875.79 億ルーブル（12 億ドル）、EBITDA が 65.4%増の 343.09 億ルーブル（4.61 億ドル）、純利益が昨年の 155.88 億ルーブルの赤字から 183.44 億ルーブルの黒字に転換した。
- * ロシアの Acron 社は 2021 年第 1 四半期の業績を公表した。化学肥料生産量が 4%増の 203.5 万トン、売上高が 6%増の 21.09 億ドル。EBITDA が 93%増の 2.12 億ドル、純利益が 1.43 億ドル。
- * イスラエルの ICL 社が 2021 年第 1 四半期の業績を公表した。売上高が 14.5%増の 15.01 億ドル、EBITDA が 18%増の 2.95 億ドル、純利益が 125%増の 1.35 億ドル。
- * ヨルダンの APC 社が 2021 年第 1 四半期の業績を公表した。加里肥料生産量が 2%増の 65.8 万トン、販売量が 21.2%増の 70.4 万トン、純利益が 58%増の 4000 万ディナール（約 5600 万ドル）。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ロシアの Acron 社は 2200 万ドルを投資して、Veliky Novgorod 工場に年間生産能力 10 万トンの粒状硝酸カルシウム生産ラインを建設する。NPK 生産ラインで硝酸を用いてリン鉱石を分解する際に発生した液体硝酸カルシウムを利用して、精製と造粒に通して硝酸態窒素 13%、水溶性カルシウム 19%の水溶性粒状硝酸カルシウムを作る。2022 年完成し、生産開始する計画である。
- * オーストラリアの Perdaman Chemicals and Fertilizers Pty Ltd (Perdaman) 社が西オーストラリア州 Karratha に地元の豊富な天然ガス資源を利用して尿素工場を建設する。年間尿素生産能力 200 万トン、投資額 43 億オーストラリアドル、2022 年第

1 四半期から建設開始、2025 年末に完成し、稼働する計画である。これはオーストラリア初の大規模尿素工場である。

- * ロシアの PJSC TOAZ 社は Tolyatti 市に建設中の尿素生産ラインが順調に進み、計画通り 2021 年末に完成すると発表した。当該プロジェクトは PJSC TOAZ 社の 3 番目尿素生産ラインで、生産能力 2200 トン/日、投資額 1.8 憶ユーロ。
- * スペインの Highfield Resources 社が提出した Muga Potash プロジェクトの鉱業権に関する書類は中央政府と地方政府から前向きな回答を得たと発表した。Muga 加里鉱床はスペインナバーラ州の州都パンプローナ市の南東約 50km に位置し、鉱床が浅く、鉱物がシルビナイトである。すでに開発の準備が始まり、鉱業権を付与されれば、正式着工となる。

その他

- * ノルウェーの Yara 社はオーストラリア政府から 4250 万オーストラリアドルの助成金を受け、西オーストラリアの Pilbara region に太陽光発電を利用するグリーンアンモニアプロジェクトを発表した。プロジェクトは 10MW 電解槽とオンサイト太陽光発電パネルの設置、プラント稼働を支援する蓄電池システムから構成される。2023 年完成する予定で、電解槽から発生した水素は Yara の Pilbara アンモニアプラントに使用し、年間最大 625 トン水素と 3700 トンのグリーンアンモニアを生産するという。
- * 5 月中旬、イランのハッサン・ロウハニ大統領は、イランに対する石油、石油化学、銀行の制裁を終わらせるための大まかな概要が米国や他の国々と合意されたと述べた。2018 年 8 月から始まったイランの石油化学製品に対する制裁は、イランの尿素の貿易の流れを完全に変えた。主な輸出先のインド市場が効果的に封鎖されたため、イランの尿素は大幅な割引で販売したり、中国とトルコ、オマーンを經由して第 3 国に輸出されたりして、確立された貿易の流れを混乱させた。
もし、制裁が緩和されれば、再び世界の尿素貿易、特にインドの尿素輸入に大きな影響を与える可能性がある。2017 年インドがイランから 171 万トンの尿素を輸入して、イラン尿素輸出量の 50%を超えた。2018 年もイラン尿素 190 万トン以上を輸入した。イラン尿素の正式輸出が再開されれば、尿素の国際相場を安定させる役割が大きいと考えられる。